

関西学院大学と兵庫医科大学は、2007年に包括協定を締結し、データサイエンス領域の医工連携研究も実施しています。今後は、関西学院大学の人文社会学領域の多様な研究を基盤として、両大学の研究面での特徴を活かした共同研究の発展を目指します。

人口減少 超高齢化 過疎化 孤独 災害...

両大学が持つ **研究** の力で

もっとポジティブで生きやすい社会へ **変革** できるか!?

2025年 3月12日 水曜 15:00-17:40

西宮上ヶ原キャンパス

(受付開始14:30)

関西学院会館

レセプションホール (風の間)

プログラム

15:00-	<開会挨拶>	関西学院大学	土井 健司 副学長
(第1部) ヘルスケアデータの活用：兵庫医科大学			
15:05- 15:50	救急・災害医学講座／救命救急センター	平田 淳一 教授	
	ソフトバンク (株) / (株) HEMILLIONS	岡留 好人 氏	
	医療情報学講座	堀 謙太 准教授	
(第2部) QOL・QOD向上研究：関西学院大学			
16:00- 17:00	工学部情報工学課程	長田 典子 教授	
	人間福祉学部人間科学科	坂口 幸弘 教授	
	工学部知能・機械工学課程	井村 誠孝 教授	
(ネットワーキング)			
17:10- 17:40	関西学院交響楽団による演奏とともに 会場にて飲み物 (コーヒー、紅茶等) を用意しています		

申込

3月10日 (月) までに申込フォームにてお申込みください

問い合わせ先

研究推進社会連携機構 研究創発センター
initiatives@kwansei.ac.jp



兵庫医科大学が構築しているPersonal Health Record (PHR)・Electronic Health Record (EHR) 連携基盤の利活用に関する講演です。
兵庫医科大学病院の年間の外来患者数は延べ60万人を越えています。
ヘルスケア領域のビッグデータへのアクセス、新たなビッグデータの収集にご興味をお持ちの皆さまの参加をお待ちしております。

お互いの感性を感じ、シナジーを生み出す関係性の構築へ

兵庫医科大学医学部救急・災害医学講座
救命救急センターセンター長

平田 淳一 主任教授



【講演タイトル】

PHR/EHRを連携基盤とする次世代型救急医療システムの開発と社会実装 ～救急・災害医療に携わる者の想い～

【講演概要】

我々は「**患者さんを選ばない救急医療**」をモットーに、“preventable death”を減少させ救命率を改善することを目指している。現在の救急患者の重症度・緊急度に依存して搬送先医療施設を判定する救急医療システムの諸課題と、それをビッグデータからデジタルツイン技術により**次世代型救急医療システム（ダイナミックマッチングシステム）を開発、社会実装**することで解決したいという夢と構想を紹介する。



ソフトバンク株式会社デジタルトランスフォーメーション本部ヘルスケア事業統括部 事業開発室室長代行
/株式会社HEMILLIONS事業開発部部長 兼 COO 岡留 好人氏

【講演タイトル】

患者/市民主体の健康医療情報活用に向けた
新たな社会インフラの構築プロジェクト

【講演概要】

兵庫医科大学とソフトバンク/HEMILLIONSが推進する『**PHR・EHR連携基盤の構築**』と地域への社会実装の取り組みと、その社会実装に向けて健康医療情報連携による地域医療の更なる発展を目指す『**川西エリアでのプロジェクト概要**』について説明する。



兵庫医科大学医学部医療情報学講座

堀 謙太 准教授

【講演タイトル（仮）】

地域性を活かした『PHR・EHR連携基盤システム』の社会実装

【講演概要（仮）】 『PHR・EHR連携基盤システム』の社会実装の展開として、『市民主体による健康医療情報活用に向けた新たな社会インフラ』、『兵庫医科大学が監修し地域の医療機関が保有する医療データを市民へ還元するシステム』を例に紹介する。

これまでの研究をベースに、Quality of Life (QOL) ・ Quality of Death (QOD) の視点を加味した講演です。



工学部 長田 典子 教授
感性価値創造インスティテュート所長

<感性工学、認知心理学、AI（人工知能）>

【講演タイトル】
ウェルビーイング社会に向けた感性価値創造の科学

【講演概要】
ウェルビーイング（豊か）でサステナブル（持続可能）な社会の実現には、人間性を中心とした新しい科学技術が求められる。快適感や心地よさといった人の主観的感覚（感性）を指標化し、これを用いてプロダクトやサービスの付加価値を高める感性価値創造研究に取り組んでいる。本講演ではQOL向上の事例を中心に紹介する。



人間福祉学部 坂口 幸弘 教授
悲嘆と死別の研究センターセンター長

<臨床死生学、グリーフケア>

【講演タイトル】
多死社会で求められるグリーフケア

【講演概要】
死別に伴う悲嘆自体は自然な反応であるが、死亡や精神疾患のリスクを高めるため、リスクやニーズに応じた遺族へのケア（グリーフケア）が望まれる。本講演では、さまざまな医療分野におけるグリーフケアの実践と研究について報告する。



工学部 井村 誠孝 教授

<VR、五感インタラクション、生体医工学>

【講演タイトル】
他者を知るツールとしてのバーチャルリアリティ

【講演概要】
ポジティブで生きやすい社会を構築するためには、他者の置かれた状況を自分ごととして捉えて、個々人の行動や仕組み作りに反映させることが重要である。バーチャルリアリティは、人の感覚を工学的に刺激することで体験を拡張する技術であり、適切なセンシング技術と組み合わせることによって、他者を知るための強力なツールとなる。本講演では、共生社会の実現に向けてバーチャルリアリティが果たす役割について、医用工学や福祉分野の事例とともに紹介する。



今回は、両大学でのQuality of Life (QOL) ・ Quality of Death (QOD) 向上に貢献できる幅広い研究を推進していくためのキックオフ・イベントです。

関西学院大学の多様な研究の中から「感性工学」「臨床死生学」「データ工学・VR」に関する講演があります。これらの領域以外でも、QOL・QOD向上に貢献できる多様な研究が関西学院大学で実施されています。

皆様の知識や研究方法が他の分野の研究に応用できるかもしれません。



このようなことにご興味をお持ちの皆さま、ぜひご参加ください

- ◆ 兵庫医科大学病院が保有する医療系ビッグデータへのアクセス、同病院の患者さんを対象とするより広い範囲のヘルスケアデータ収集の可能性が広がります（年間外来患者数延べ60万人超）
- ◆ 現在の研究をベースに、あるいは学際的な研究の立ち上げを目指して、科研費などの研究パートナーを探しませんか
- ◆ 先生方の質問、コメントがQOL・QOD向上に資する他の分野の研究に貢献できる可能性があります
- ◆ 分野を越えたチーム型研究を考えてみませんか
- ◆ 研究を通じた社会貢献、社会実装のヒントを見つけませんか
- ◆ 今回の兵庫医科大学の発表に直接関係しない研究テーマについても、両大学の研究推進部門が橋渡しいたします

問い合わせ先

研究推進社会連携機構 研究創発センター
initiatives@kwansei.ac.jp